

# 高齢者の学習支援に関する課題ブック

平成 28 年 9 月 10 日

日本生涯教育学会  
生涯学習実践研究所研究会

## 登録関係事項

登録日 2016 年 9 月 19 日

掲載場所 日本生涯教育学会 生涯学習実践研究所  
プラチナ e 資料館「論文・報告」

URL <http://lifelong-center.jimdo.com/>

## はじめに

周知のように、総人口が減少する中で高齢化率は上昇を続け、平成 47(2035)年には 3 人に 1 人、67 (2055) 年には国民の約 4 割が 65 歳以上の高齢者となると推計されている。75 歳以上人口の割合も上昇を続け、同じく平成 67(2055)年には 4 人に 1 人が 75 歳以上という社会がほぼ間違いなく到来する。

しかし、日本の高齢化には、そのスピードの速さのほかいくつかの特徴がある。日本の健康寿命は 75 才で、シンガポールに次いで世界ランキング 2 位。さらに、OECD の成人学力調査の結果、我が国は、読解力、数的思考力ともに世界第 1 位、他国に比べ、加齢にもかかわらず、高い水準を維持している（ただし、60 歳以上の年代の「IT を活用した問題解決能力」に関してはやや怪しい。この点は心当たりのある人も多いかもしれないが、これも急速に向上していくと思われる。昭和一ケタ世代の私の母も、しばらく前から私のブログや SNS を常にチェックしているらしい）。

これは何を意味するか。

高齢化は早晚世界中で進む。だとすれば、諸外国に比べ、元気で知的な高齢者の多い日本の未来は明るいということだ。

ただし、条件がある。それは、より多くの高齢者が元気で知的な「幸齢者」であり続けるための、社会システムを創ることだ。「胴上げ型から騎馬戦型、さらに肩車型」などと言って、高齢者をどう支えるか、という一面的な発想から抜け出せない自治体は、いずれ消滅する。世代を越えて支え合い、高め合うレジリエントなコミュニティを創り上げていかなければならない。そこでカギを握るのが「生涯学習」である。

以上のようなことはこれまで繰り返し指摘されてきた。必要なのは、「実践」である。それは、単に我が国の持続的発展のために不可欠であるというだけでなく、世界に先駆けて高齢社会を迎える日本の、国際的な責任でもある。ここに、日本生涯教育学会生涯学習「実践」研究所に研究会が発足し、この度その 1 年間にわたる精力的な取組みの成果を取りまとめ公表されるに至ったことに、心から敬意を表するとともに、これが多くの関係者に対する問題提起としてしっかりと受け止められ、建設的なフィードバックを得つつ、さらに磨きをかけていっていただくことを大いに期待している。

平成 28 年 8 月 22 日

日本生涯教育学会 生涯学習実践研究所所長  
生涯学習実践研究所研究会会長

合田隆史

# もくじ

	頁
はじめに	
もくじ	
I 研究の概要	……1
1. 研究会について	……1
(1) 目的	……1
(2) 設置の経緯	……1
(3) 研究会メンバー	……1
2. 研究テーマ	……1
(1) 研究テーマと課題	……1
(2) 研究テーマ設定の経緯	……2
3. 研究経過と運営	……2
(1) メール研究会の開催	……2
(2) 研究会の運営	……2
II 高齢者の学習支援に関する課題 — 提言の一覧	……4
III 高齢者の学習支援に関する課題についての提言	……5
付 資料 研究会員名簿	……7

# I 研究の概要

## 1. 研究会について

### (1) 目的

やがて人口の 30～40 パーセントを占めるようになる高齢者が超高齢社会をどう作っていくのか、それを支える生涯学習を根本的、本格的に研究することを目的とする。

### (2) 研究会設置の経緯

平成 27(2015)年 1 月の生涯学習実践研究所設立後、その目指す継承と創造の研究をすすめるべく、運営会議で研究所の充実を図るための工程表が作成され、その中で平成 27(2015)年度に研究会を設置することとされたので、準備が進められ、同年 10 月に設置された。

### (3) 研究会メンバー

「付 資料」の「研究会員名簿」を参照。

## 2. 研究テーマ

### (1) 研究テーマと課題

研究会で取り上げる研究課題とテーマは、次の通りである。

#### 研究課題 I

超高齢社会を活性化する高齢者主体の生涯学習活動の在り方を明らかにする。

その中で、超高齢社会における生涯学習の必要な課題は何であるかを探るとともに、生涯学習社会における高齢者の新たな役割も明らかにする。

#### 研究テーマ 1 高齢者主体の生涯学習によるまちづくりの実証的研究

##### 1) 超高齢社会における高齢者への学習支援

- ・ 高齢者への学習支援の基本的な考え方
- ・ 高齢者の学習領域

##### 2) 高齢者による生涯学習支援の現状と課題

- ・ 高齢者の経験・知識を生かした住民（子供を含む）の生涯学習に関する支援活動

##### 3) 高齢者の社会貢献活動

- ・ 高齢者の経験・知識を生かした地域活性化に関する社会貢献活動
- ・ 高齢者の相互支援や各世代との共生によるボランティア活動
- ・ 学社民の連携・融合を通じて地域を活性化する地域コーディネーター及びコーディネーター制度の現状と課題

##### 4) 高齢者の生涯学習活動を積極的に支援する施策

- ・ 学習機会、リーダー養成、グループ支援、関係行政ネットワーク、協働事業への参画
- ・ 高齢者の健康年齢と生涯学習との関連(健康年齢の高い地域における生涯学習との関連を明らかにする。)

## 研究課題Ⅱ

生涯学習の振興が図られない原因を明らかにし、その原因を克服できる生涯学習振興のためのシステム・モデルを構築する。

### 研究テーマ 2 「生涯学習振興のためのシステム」に関する調査研究

- ・生涯学習振興のためのシステムに関する実態調査
- ・高度生涯学習支援システム・モデルの構築

## (2) 研究テーマ設定の経緯

研究会設置に伴い研究会準備人において準備を進め、運営会議で研究会発足時の研究テーマを設定した。

その際には、次のような観点を立てて検討を行った。

### 当面の課題

- ・「超高齢化」、「生涯学習」、「地域」の関係で、継承と創造の諸相を明らかにする。
- ・これからの超高齢社会については、介護などの社会的負担をどうするかというような影の部分のみが強調されがちだが、社会的役割がなくなり、衰えつつある高齢者が、再度何らかの役割を得ることによって、急速に元気を回復する例が多いことに鑑み、生涯学習によって実現可能な超高齢社会の光の部分を明らかにする。

### 基礎作業

- ・現在の高齢者の学習活動と社会的活動の事例を収集し、可能性についての分析を行う。
- ・地域で継承されてきた知見、知恵などがあれば収集し、それを参考にして、新たに継承すべきことを列挙する。
- ・高齢者の学習が社会の活力低下を防ぐ可能性を予測する。
- ・レジリエンスの学習プログラムを開発する。
- ・超高齢化社会の維持・存続・成長への生涯学習の挑戦についての仮説を立て、その説明を行う。→ それが超高齢社会をユートピアとして描くことになる。

### 例

これからの超高齢社会の成長と限界はひとえに学習による高齢者の能力の維持・成長にかかっている。

### 研究成果のまとめ

研究成果は記述するのではなく、仮説とその説明という形式でまとめる。

## 3. 研究経過と運営

### (1) メール研究会の開催

研究会のメンバーは全国に広がっているので、メール研究会を月1回のペースで開いている。開催回数は、平成27(2015)年10月から平成28(2016)年9月までに計12回となっている。

### (2) 研究会の運営

研究会はメールで行っているため、その管理・運営は、事務局に研究会幹事を置いて、幹事が行っている。

この1年間は、主として研究課題Ⅰの検討を行い、その結果を提言としてとりまとめた。（「Ⅱ 高齢者の学習支援に関する課題 — 提言の一覧」「Ⅲ 高齢者の学習支援に関する課題についての提言」を参照。）

今回提出した提言は、平成28年7月までの検討結果である。今後、さらに検討を行って提言を加えていく予定で、また、今後は研究課題Ⅱの研究テーマについても検討を開始し、成果が得られたものから順次公表していく予定である。

## II 高齢者の学習支援に関する課題 — 提言の一覧

これは、高齢者の学習支援のためのプログラミングを行う際の手掛かりを提供すべく、「III 高齢者の学習支援についての提言」を一覧にしたものである。それぞれの項目については、IIIを参照。  
平成28(2016)年6月現在の提言者：清水英男、古市勝也。

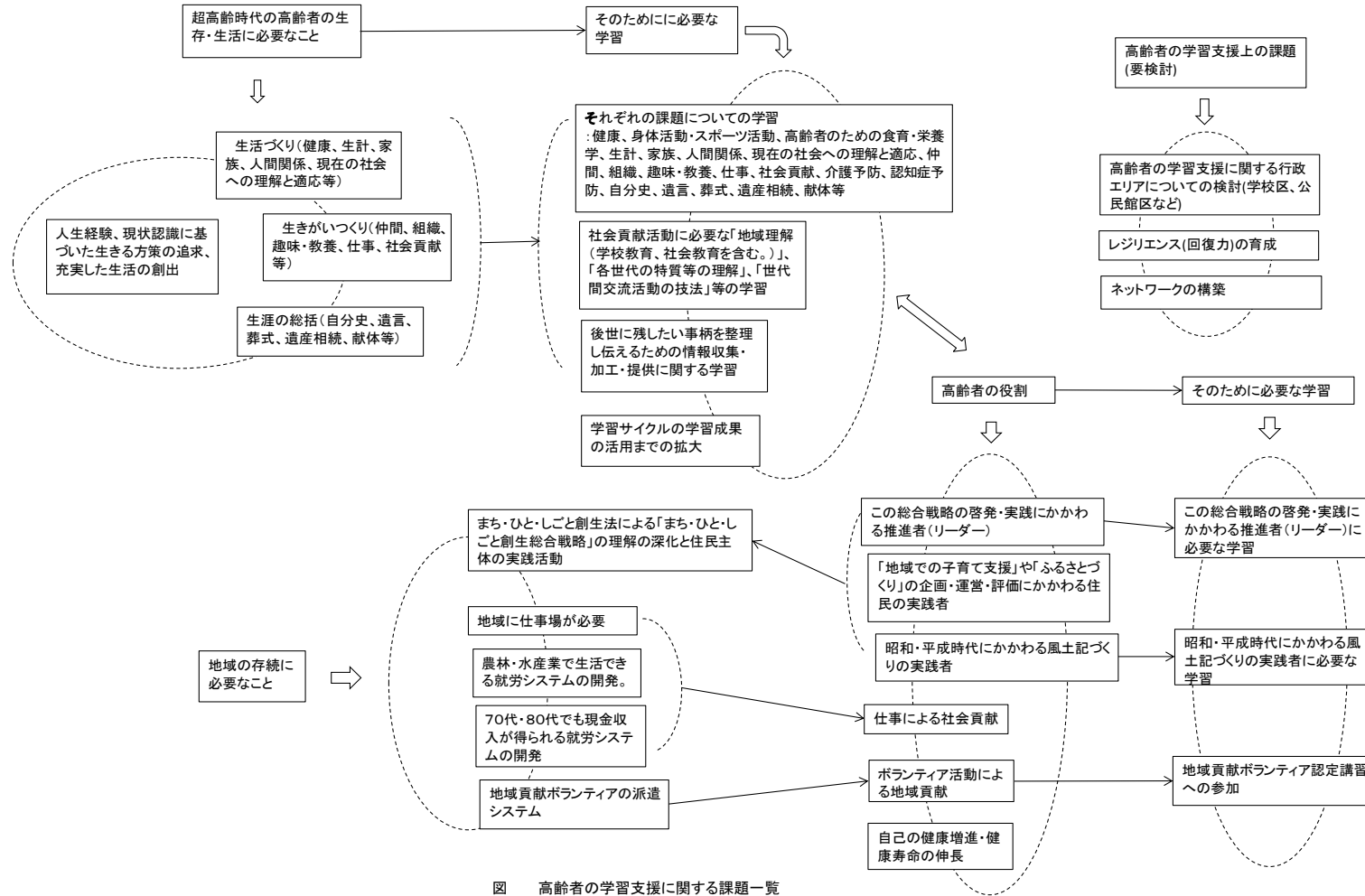


図 高齢者の学習支援に関する課題一覧

### Ⅲ 高齢者の学習支援に関する課題についての提言

この「高齢者の学習支援についての提言」は、概要にある研究課題1の「超高齢社会における生涯学習の必要な課題は何であるかを探るとともに、生涯学習社会における高齢者の新たな役割も明らかにする」という部分についての検討の中で行われたものである。今後も提言書が提出された場合には、これに追加していく予定である。

氏名・所属・提出年月日	超高齢時代に高齢者が生きていくため、生活していくために必要なこと。	そのために必要な学習
清水英男 栃木センター長  2016(平成28)年3月24日提出	今までの人生経験を踏まえ、現状を認識しながら自分らしく生きる方策を追求し、生きていることを実感できる生活を創りだす。	学習成果の活用は、教育・福祉・労働など各分野にわたるので、学習の範囲を“気づき 調べ 振り返り 実践する”という学びのサイクルへ拡大する。
	その生活を創りだすためのキーワードは、以下のことが考えられる。	(1) 左記のキーワード((1)から(3))に関する学習
	(1) 生活づくり(健康、生計、家族、人間関係、現在の社会への理解と適応等)	
	(2) 生きがいつくり(仲間、組織、趣味・教養、仕事、社会貢献等)	
	(3) 死にがい(終活)づくり(自分史、遺言、葬式、遺産相続等)	
		(2) 長い人生経験を有する高齢者の特質を生かし、自らが後世に残したい事柄を整理し伝えるため、いわゆる各種媒体による情報の収集・加工・提供に関する学習
	(3) 特に、1日に地域に滞在している時間が長い高齢者が、社会貢献活動を行うために必要な「地域(学校教育、NPOや公民館等社会教育を含む。)理解」、「各世代の特質等の理解」、「世代間交流活動の技法」などの学習	
古市勝也 福岡センター長  2016(平成28)4月16日提出	高齢者には健康維持増進のための健康づくり学習:「身体活動・スポーツ活動」「高齢者のための食育・栄養学」「介護予防講座」「認知症予防講座」等 高齢者の「生きがいつくり」のための学習:趣味 1. 健康 2. 生きがい 3. 社会貢献(地域・社会的承認)	1. 教養講座 2. 地域・社会貢献活動 3. 心豊かに死期を迎える:遺言の書き方講座、葬儀の研究、献体の研究



氏名・所属・提出年月日	超高齢時代における地域の存続に必要なことと高齢者の役割。	それについては、どのような学習が必要か？	高齢者の学習支援上の課題は何か？
清水英男 栃木センター長  2016(平成28)年3月24日提出	まち・ひと・しごと創生法による「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の理解の深化と住民主体の実践活動		支援範囲について 《私見》公民館が中学校区に1館設置されていれば、支援人口規模、支援機関、支援者等を含めて公民館規模がよいと思います。
	《高齢者の役割》		
	(1) この総合戦略の住民としての啓発と実践にかかわる推進者(リーダー)	左記((1)と(3))に関する学習	
	(2) 特に、「地域での子育て支援」や「ふるさと」に対する誇りを高める「ふるさとづくり」の企画・運営・評価にかかわる住民の実践者		
	(3) 昭和・平成時代にかかわる風土記づくりの実践者		
古市勝也 福岡センター長  2016(平成28)4月16日提出	1. 地域に「仕事場」が欲しい。地域に仕事場がないから人は(若者は)仕事のあるところに移動する。		1. 自治公民館(類似公民館)の活動の再評価
	2. 農業で林業で漁業で食べられる(生活できる)就労システムの開発。		人口約98万の北九州市では129の市民センター(小学校校区に1館)での活動を推進して高齢者の学習活動を支援することが強調されている。ところが、小生も参加する、北九州市「高齢者支援計画」の委員会では、老人クラブや地域自治会の代表から、「市民センターでは、日常生活での活動には遠くて支障を来している住民もいる。自治公民館(類似公民館)での活動を推進すると全住民に定着する」との声が出ている。 自治公民館-小学校校区の市民センター(地区公民館)-中学校校区の中央公民館-全市町村等を見据え、地域の実情を把握した支援範囲が求められる。
	3. 70代・80代でも元気な高齢者現金収入が得られる就労システムの開発		
	(仮説: 仕事のある高齢者は元気である。認知症にならないといわれている。)		
	その中で高齢者の役割は何か？		
	1. 元気な高齢者は、仕事で社会貢献		
	2. 自分の健康の維持増進、学習活動に努め「健康寿命」を伸ばす		
	3. 地域貢献ボランティアに参加(費用弁償程度のボランティアシステムの開発)	1. 地域貢献ボランティア(認定講習会の実施後に派遣するシステム開発)	
<p>&lt;古市勝也の現場レポート&gt;</p> <p>1. 自宅近くの「福岡市立博多区体育館」で、週数回「トレーニング室」(筋トレができる)に通っています。ここで、気づいたこと、①平日の午前午後高齢者が多い。(ほとんど高齢者8割強、主婦層2割弱)。②土曜日・日曜日は若者が多くなり大繁盛です。(高齢者が多い原因は、70歳以上は無料にありそう。)</p> <p>&lt;分析&gt;: よちよち歩きの高齢者も来ていて、好きな器具を触って時間を過ごしている状況を見ると、高齢者には健康維持増進のための健康づくり学習の場になっていると確信しました。</p> <p>2. 4月14日から、放送大学福岡学習センターでの非常勤講師授業がスタートしました。ここでも、若者、中年に混ざって、高齢者の受講生も多く見受けました。授業の外、グループによるテーマ学習活動、趣味サークル活動、図書館での個人学習活動をそれぞれ楽しんでいる高齢者が多いということを改めて認識しました。</p> <p>3. 那珂川町の教育文化施設「ミリカローデン那珂川」(指定管理: 公益財団法人那珂川町教育文化振興財団)の職員研修に招かれ講義しました。テーマ「生涯学習社会における生涯学習関連施設の役割」。熱心な職員の皆様に、指定管理団体の重要性と直面する課題を感じました。</p> <p>&lt;感想&gt;: 今、市町村の多くの施設は指定管理者制度が導入されています。行政の一端を担う職員研修が重要である。指定管理者及び職員の役割の理解が今後重要である。また、指定管理者団体職員研修プログラムの開発も重要である。</p>			

## 付 資料

### 生涯学習実践研究所研究会員名簿 (アイウエオ順 ○は研究会会長)

- 浅井経子 (事務局)
- 伊藤康志 (事務局)
- 今西幸蔵 (関西センター)
- 小川誠子 (事務局)
- 菊池龍三郎 (茨城センター)
- 合田隆史 (本研究所長)
- 小山忠弘 (北海道センター、顧問)
- 清水英男 (栃木センター)
- 角替弘志 (静岡センター)
- 新田憲章 (広島センター)
- 西之原鉄也 (研究員、福岡センター)
- 船木茂人 (事務局)
- 古市勝也 (福岡センター)
- 真柄正幸 (新潟センター)
- 松永由弥子 (静岡センター)
- 薬袋秀樹 (本研究所図書館実践部門)
- 矢端義直 (群馬センター)
- 山本恒夫 (顧問)
- 山本裕一 (事務局)
- 吉田広毅 (事務局)